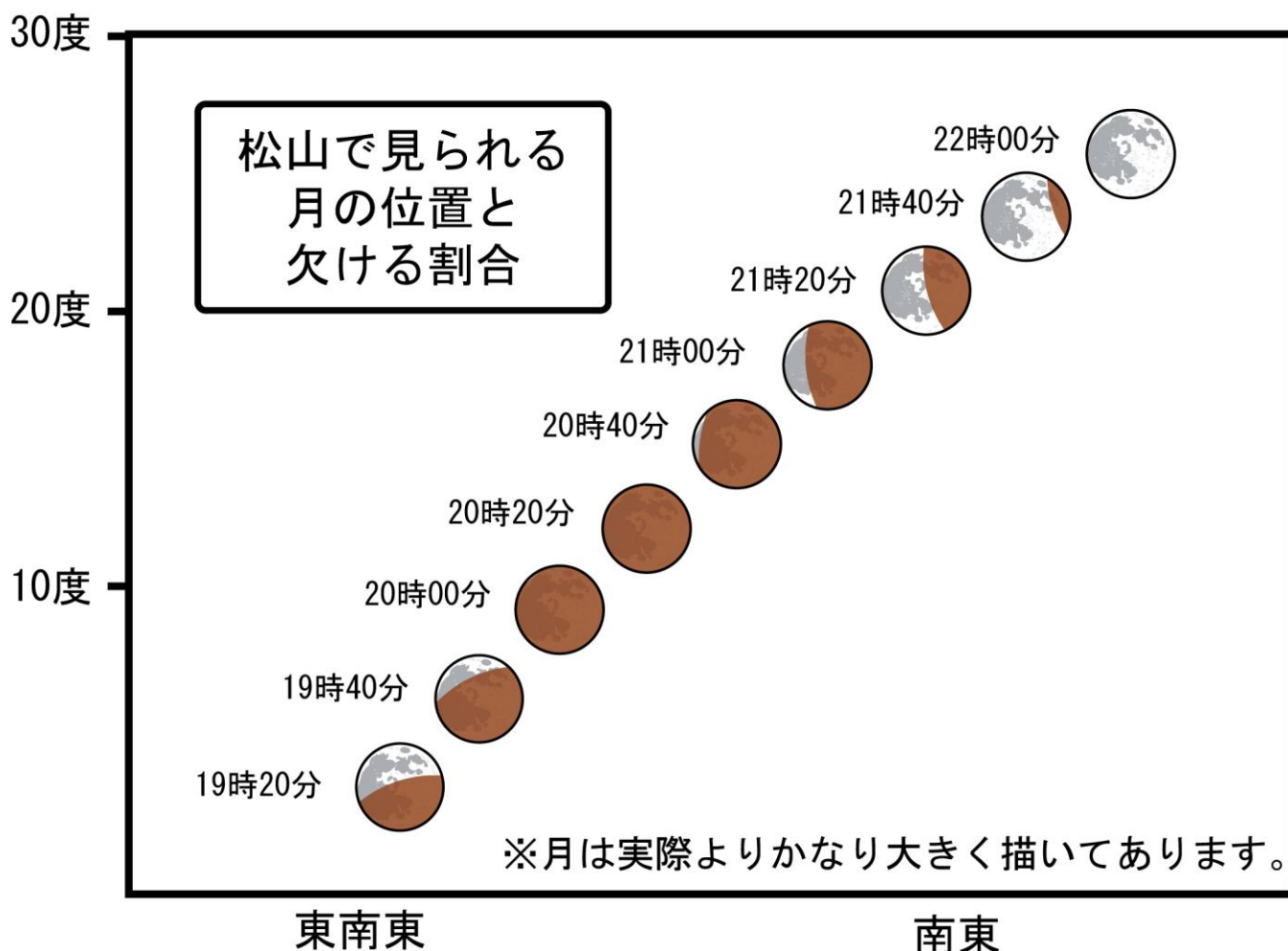


# コスモシアターニュース 皆既月食特別号

★ 皆既月食が 2021 年 5 月 26 日(水)に見られる ★



当日の月の出は、19時3分ごろです。この時に約30%欠けていますが、地平線方向に山や、建物があるため月は見えません。ちなみに、松山の日の入りは19時10分ごろです。このため、空も明るいので、月が見えてくるのは、19時20分以降になるでしょう。

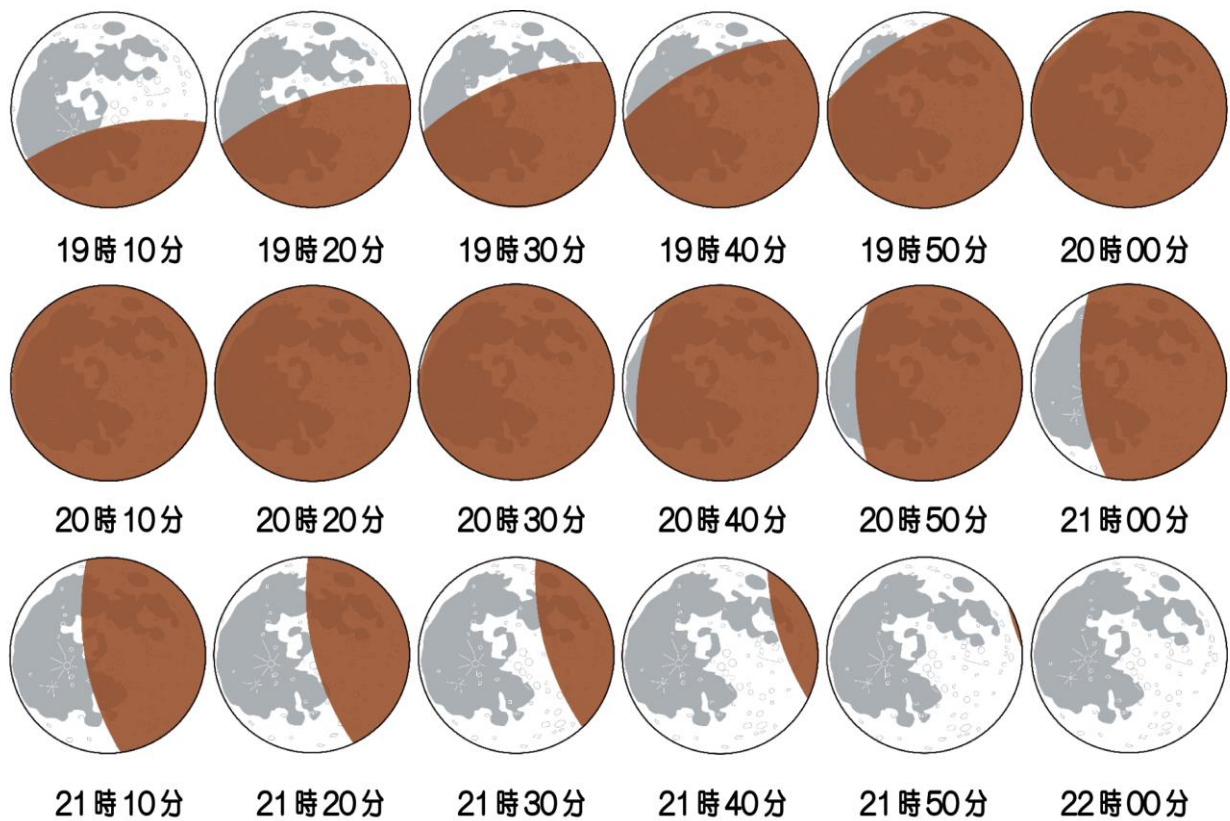
月食の前半は、月の高度がたいへん低いので、低空に障害物があると見られません。東から南東方向が、見晴らしのいい所で観察する必要があります。また、まだ夕焼けが残り、空が明るいので、月そのものが見えないかもしれません。できれば、双眼鏡を用意して観察するといいいでしょう。なお、月食で欠けた月の部分は、完全に見えないのではなく、うすぼんやりと見えます。このため、月の右下の部分がぼんやりと暗く見えているでしょう。

そして、20時をこえると、ほぼ月が欠けて見えますが、このころには、明るい所がほとんどなくなり、欠けた暗い部分が見やすくなります。また、月の輝きがなくなりなっています。このころには、夕焼けが少し残っていますが、空が暗くなっているため、月が見やすくなっているでしょう。

皆既月食が始まるのは、20時10分ごろです。月食の現象は、はっきりした境界がありません。あくまでも、目安と覚えてください。なお、皆既月食の間は、月はまったく見えないのではなく、赤銅色に見えているでしょう。

今回の皆既月食は、約20分間の現象で、20時30分ごろから、月が輝き始めます。このころには、月の高さが高くなり見やすくなります。また、夕焼けも収まるので、月食に後半が観察に適しています。

月の輝きが戻るのは、20時40分ごろになります。左側が明るく輝きます。そして、明るい部分は広がります。21時をすぎると、ほぼ月の半分がまぶしく見えているでしょう。その後、約50分で、ほぼまん丸になり、元の月に戻ります。これで、月食が終了となります。ただ、終了後も月がかすかに暗くなる、半影月食（はんえいげっしょく）が残っています。この半影月食が終了となる22時50分ごろには、本当の満月の明るさに戻ります。さて、次回の月食は、今年の11月になります。皆既月食ではありませんが、98%ほど欠ける部分月食が見られます。



上の図は、月食の進行の様子です。図の下側が、地平線方向になります。月食は、月の下から欠け始めます。そして、20時10分ころから約20分間が完全に欠けて見える皆既月食となります。そして、20時30分以降に、左端から明るくなっていきます。なお、月食は、月の欠けぎわがぼんやりしているため、日食のように、はっきりした現象ではなく、おおよその時刻となりますのでご注意ください。

今回の月食の前半は、月の高さが低く、夕焼けが残り、空が明るいので、見にくい状態となります。できれば双眼鏡を用意して観察するといいいでしょう。後半は、肉眼で十分楽しめるでしょう。

## 月食は・・・

月は、太陽の光があたっている所が肉眼で明るく見えます。このため、地球から見ると、太陽の向きによって、光のあたる所が変わるため、欠けたり、丸くなったりします。また、地球によって太陽の光が月にあたらなくなって、欠けて見えることもあります。この現象を月食と呼びます。この月食の中で、月全体に全く光があたらなくなる時を、皆既月食(かいげっしょく)と呼びます。また、一部が欠けて見える現象を部分月食(ぶぶんげっしょく)と呼びます。前回の皆既月食は、2018年でしたので、約3年ぶりとなります。また次回の皆既月食は、2022年11月8日となります。

月が欠けている部分は、地球の影に入っている、暗く見える部分です。この影の部分は、地球の大気の影響で、ぼんやりとしています。このため、月が欠けている部分は、完全に見えなくなることはありません。また、欠け際もぼんやりとしています。結果として、月食が始まる時刻もおおよその時刻で、少し前から欠けているように見えます。

ところで、皆既月食になっても、月が完全に見えなくなることはほとんどありません。というのは、地球に大気があるためです。太陽からの光が、地球の大気で屈折して、月をわずかに照らすのです。この時の明るさは、地球の大気の汚れかたで変化し、大きな火山噴火の後などはほとんど月が見えないこともあります。写真で見ると赤く見える月ですが、肉眼では赤黒く見えることが多いでしょう。

さて今回の皆既月食はどんな色をしているのでしょうか。観察するには、肉眼で十分楽しめます。ただ、双眼鏡などあれば、より詳しく観察することができます。お持ちのものがあれば、ぜひ使ってみてください。